



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：アサド大統領の演説

(6月3日付シリア国営通信社)

6月3日、バッシヤール・アサド大統領は、第1期人民議会の開催に際して演説を行った。演説時間1時間5分であった。同演説の要旨は以下の通り。

- ・ 変革が行われたが、テロ行為に関する現実は変化していない。テロリストは犯罪者であり、改革や対話は意味をなさない。シリアは外国からの真の戦争に直面している。
- ・ (反体制派) 諸勢力は、ボイコットと称して選挙から逃げた。選挙のボイコットは、国民であることのボイコットである。民意は難しい状況下での人民議会選挙等に現われている。
- ・ 反体制勢力の一部は選挙に参加し、この議会にいるが、他の一部は外国の肩入れや指示を待っている。
- ・ 現行の憲法は人民議会選挙後の内閣総辞職を規定しており、近く、新たな政治勢力を考慮した新内閣が組閣される。
- ・ 我々は大義を守り、国家を守るために闘っている。流血を好んで闘っているわけではない。もはや敵は国内にいる。
- ・ 問題は、当初提起されたような改革や民主主義ではなく、抵抗におけるシリアの役割、抵抗に対するシリアの支援に打撃を与え、国家を分裂させることである。
- ・ ホウラ等で起きたことは、残忍な虐殺である。怪物でさえ行うことはない。この虐殺に心を締め付けられるような痛みや、爆発寸前の怒りを感じなかったとしたら、それは人間ではない。彼らは1980年代に起きたことを繰り返そうとしている。アナン特使訪問前に、このような行為を、国家やその支持者が行うわけではない。
- ・ この宗派抗争カードは彼らにとって最後のカードである。皆が手を取り合えば終わりは近い。